

様式 2

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：歴史と文化

部会長名：萩原 守

作成者名：萩原 守

概要（2000 字）

「歴史と文化」教育部会は、シラバスからよくわかるように、多彩な科目と教育内容を有している。したがって具体的な授業内容は種々様々であるが、2008 年度も、それぞれの科目で歴史の授業としての工夫がなされていることがよく理解できる。

例えば授業内容に関していえば、歴史学における研究の方法論という基本的な視点から説き起こして、他の学問分野との違いを受講者に認識させたり、同じ歴史事象に関する古い解釈と新しい解釈とを比較対照させて、歴史学の進歩を理解させたりする工夫がなされている。また、受験用の日本史・世界史の影響で何でも暗記する必要があると勘違いしがちな受講者に対しては、日常生活に直接関わる身近な題材を取り上げたり、持ち込み可能な長文論述試験実施のアナウンスを徹底させたりして、歴史学を学ぶ意義そのものを授業開始当初から理解させようとする工夫が見られる。

授業の進め方の問題でいうと、どの授業にも共通していることとして、受講者のかなりの部分が高校で世界史や日本史のどちらか片方しか選択していないことが、授業担当教員の大きな関心事・心配事となっている。そのために、受講者たちが授業展開に遅れることなく内容を理解しながらついてきているかどうか、また消化不良を起こさない程度の早さで授業を進められているかどうか、等が常に教員の心にあることがわかる。それらの点を自らチェックするために、初回に基礎知識テストを実施したり、途中で頻繁に小テストを行って理解度を確認したり、また、途中での独自の小アンケートや学期ごとの全体アンケートでの受講者側からの評価を参考にする等々、ほとんど最大限の努力がなされていることもよくわかる。

大学の授業としての質の高さを保持するという点に関しては、当該授業の専門分野における先進的な研究内容を生かして、それを受講者に伝えるよう各教員ともに努力していることがよくわかる。しかも過度に難解な授業に陥ることを避けるべく、種々の工夫がなされている。例えば、シラバスで予め主要な参考文献を掲示しておいたり、参考文献一覧のプリントを授業中に配布したりする試みが見られる。この点は、授業理解度が不足している学生に対する配慮としても、意味があろう。学生自身による自習や予習復習に関しても、かなりの数の教員が、それを促すために授業中に受講者から独自のアンケートを取っており、そのアンケート結果に基づいて参考文献を指示したりして、効果的な自習や試験準備ができるように、配慮していることがよくわかる。また、試験準備の方法や答案の書き方、具体的なレポートの書き方等々に関しても、かなり詳しい解説を授業中に実施している教員が多い。

授業実施の際の具体的な手法に関しても、種々の試みが行われている。例えば、ビデオや PC、映画等を利用したりして、視覚と聴覚の両方から情報を与えようと工夫している様子が見て取れる。ただ少人数授業や、対話・討論型授業、フィールド型授業、等々の実施に関しては、もともとの受講者数が余りに多く T.A. 予算も少ないため、当初からほとんど実施不可能に近いようである。また、パワーポイントを使用した場合に、よく指摘されるように、ノートを取る時間が取れないとか、授業進度が速くなりすぎて消化不良になるなどのアンケート結果もやはりはっきりと出ているようであるが、それらに配慮して微調整しつつ、慎重に使用されていることもわかる。

受講者とのコミュニケーションの問題でいうと、ほとんどの教員がシラバスでオフィスアワーを設定したり自分のメールアドレスを公開したり、また授業中に独自のアンケ

ートを取ったりと、種々の学習相談上の工夫が充分になされていると判断できる。受講者数が多い授業としては、この種のコミュニケーションが絶対に必要であろう。

最後に現在の時点での問題点をいくつか挙げると、以下のようなだろう。授業担当教員が様々な工夫をこらして内容を深く理解させようと努力しているのに対して、それを全く受け付けず、勉強しないで最小の努力で単位のみを求めようとする学生も少数ながら当然存在する。そのような場合に、授業担当者が苦悩している側面も見える。また、学生とのコミュニケーションの問題に関しても、特定の学生たちから単位認定のみを求めようとするような依頼がメールで殺到したりする問題点もある。もう一点、常に問題となるのは、学期ごとの全体アンケートに対する受講者側からの回答率のあまりの低さである。現状のネット上でのアンケートでは、よほど熱心で律儀な学生か、よほど強い不満を持つ学生しか回答しようという気にならないのが実状であると思われる。そもそも受講者側からのアンケート回答というものは、このような特定層の受講者からの回答を求めるような類のものではなく、「その他おおぜい」とでもいうべき最も一般的な受講者の声をこちらから拾い上げるべき性格のものではないのかと思う。一部の私立大学で既に復活しているような紙媒体でのアンケートに戻すべきではなかろうか。

様式 2 (続き)

項目・観点ごとの記述

基準 5 教育内容及び方法

5-1-②： 授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

(観点に係る状況) 「歴史と文化」部会の授業は、もともと日本史、西洋史、アジア史、科学史、芸術史、歴史と現代、考古学等々の多彩な内容を含んでおり、シラバスからもよくわかるように、十分に教育課程の編成の趣旨に沿ったものとなっている。

根拠資料 シラバス、アンケート結果、試験答案。

5-1-③： 授業の内容が、全体として教育の目的を達成するための基礎となる研究の成果を反映したものとなっているか。

(観点に係る状況) 各担当者ともに、当該授業の専門分野における先進的な研究内容を受講者に伝えるよう努力していることがよくわかる。しかも過度に難解な授業に陥ることを避けるべく、種々の工夫が為されていることもわかる。

根拠資料 当該分野に関する参考文献を記載して配布したプリント類や、使用したPCソフト、ファイル等々。また事前に作成掲示しているシラバスでも、最先端の研究文献を指示していることがわかる。

5-1-⑤： 単位の実質化への配慮がなされているか。

(観点に係る状況) かなりの数の教員が、授業中に受講者から独自のアンケートを取っており、それに基づいて参考文献を指示したりして、効果的な自習や試験準備ができるように、配慮していることがよくわかる。

根拠資料 シラバスの中で、効果的に学習を進めることのできる方法が指示されておあり、自習や予習・復習もできるような記述方法になっている。また、予習復習を促すために実施された小テストやパワーポイントのファイルもある。

5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、多様なメディアを高度に利用した授業、情報機器の活用、T Aの活用が考えられる。）

（観点に係る状況）ビデオやP C、映画等を利用して、学習指導法の工夫を行っている様子がよくわかる。特に芸術史の授業では、映像資料の工夫が顕著である。ただ受講者数が余りに多く T.A.予算も少ないため、演習、討論、実習等はかなり困難のようである。

根拠資料 使用されたビデオ映像、パワーポイントのファイル、P Cの映像資料類。シラバス、授業アンケート等。

5-2-③： 自主学習への配慮、基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

（観点に係る状況）授業中に独自のアンケートや小テストを実施しつつ、参考文献リストを示して、学力不足を自ら補えるような工夫がこらされている。また、学期ごとのアンケート結果に基づいて、授業進度を微調整するなど、細かい配慮がうかがえる。

根拠資料 独自のアンケート結果、配布した参考文献リストのプリント、実施した小テスト、学期ごとの全体アンケート。

5-3-②： 成績評価基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）シラバスで評価基準を明示した上で、授業中にも小テストを実施したり、レポートの書き方や試験準備の方法等に関する指導を行っていることがわかる。また、出席もとられている。

根拠資料 シラバス、出席簿、小テスト、レポート、試験答案、全体のアンケート。

基準6 教育の成果

6-1-③： 授業評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）ほとんどの教員がアンケート結果に強い関心を抱いており、常に授業を微調整している様子がよくうかがえる。そのため評価自体も高く、効果が上がっていると判断できる。ただ、勉強せずに単位のみを求める学生もいて、苦しんでいる面も見える。

根拠資料 全体のアンケート結果、個々の授業中のアンケート結果、シラバス、試験答案。

基準7 学生支援等

7-1-②： 学習相談、助言（例えば、オフィスアワーの設定、電子メールの活用、担任制等が考えられる。）が適切に行われているか。

（観点に係る状況）シラバスでオフィスアワーを設定したりメールアドレスを公開したり、また授業中にアンケートを取ったりと、種々の学習相談上の工夫が充分になされている。ただ、特定の学生たちから単位認定依頼がメールで殺到したりする問題点もある。

根拠資料 シラバス、授業中の独自アンケート、メール送受信の記録、全体アンケート。